

『願いをこめて』

株式会社イワキ イワキメガネ京王店

廣田 聡美

「あのね、私ね、実は癌なのよ」

眼鏡を作りたい、とご来店されたおばあさんが小さい声でそう囁いた。笑顔が素敵な方で、元気そうに見えたので私は驚いた。「乳癌だね。今はいろんなところに転移しちゃって。抗癌剤も何度もやってね。だからほら。髪の毛ぜんぶ抜けちゃって」

あはは、と笑いながら、おばあさんは薄く柔らかい帽子の布越しにご自身の頭を撫でた。

口元は笑いながらもとても悲しそうなその姿を見て、私はふと自分の闘病生活を思い出した。私は2年前、癌になった。血液の癌の一種で、抗癌剤治療を行った。副作用で強い吐き気が続き、髪も眉毛も抜け落ち、身体は日ごとに痩せて貧相になっていく。そんな自分の姿を鏡で見ることが一番辛かった。“私は癌だ”と嫌でも実感してしまうからだ。このおばあさんも辛く大変な思いをしているはずだ。少しでも力になりたい、と強く思った。

「実は私も、癌を経験しました」 あらそうなの、と驚くおばあさん。「今は経過観察中ですが、少しはご病気のお辛さもわかると思います。ぜひ私にお手伝いさせてください」

私は闘病中、お洒落をすると心が元気になった。化粧をしてウィッグを被ると、私は‘癌患者’から‘健康で元気な女の子’に変身する。そんな自分を鏡で見ると、気持ちが明るく前向きになれたのだ。そこで私はおばあさんのために、ご自身の姿を鏡で見ると元気になるような、お洒落で素敵な眼鏡を作りたいと思った。様々な眼鏡をご紹介し、レンズのデザインをフルオーダーで作製できる眼鏡に決まった。皮膚が弱く化粧ができないため、とにかく健康的に見せたい、というご希望を叶えられるよう、二人でああでもない、こうでもない、と悩みながらデザインを作っていた。後日、眼鏡のお渡しの際、完成した眼鏡をかけて鏡を見たおばあさんがこうおっしゃった。

「私ね、髪も眉も無い自分を見るのが嫌だったの。でもこの眼鏡のおかげで、これからは鏡を見るのが楽しくなりそう。どうもありがとう」 私はおばあさんの力になれたのだと嬉しくて泣きそうになった。そして私が癌になったのも、決して無意味ではなかったと思った。

最後にお見送りをし、小さくなっていくおばあさんの背中を見ながら、私は強く願った。

“あの眼鏡が、これから先ずっと、おばあさんの心を明るく元気にしてくれますように”